

サラダ小松菜 栽培マニュアル



① 生理、生態的特性と作型

一般にツケナ類は冷涼な気候を好み生育適温は10～25℃くらいですが、小松菜は暑さ、寒さに強く、周年栽培が比較的容易です。土質は特に選びませんが保水排水条件の良い肥沃な圃場を選定します。周年を通じた作柄の安定のためには、雨除けハウスの利用が望ましいですが、冬期はトンネルによる保温、春秋期は防虫トンネルというようなトンネルを利用した栽培も可能です。しかし、6月中旬以降から8月に収穫期を迎える作型はトンネル栽培では困難です。特に生育期間が短く、かなりの連作となるので畑の根や古葉の撤去を行い、障害回避のために有機質の投入による土づくりを心がけます。

冬期はビニールによる保温、梅雨時期は雨除け、夏期は換気と遮光を行います。肥料は元肥のみとし、三要素各10kg/10aを基準に夏期は5～6kg/10a、冬期は7～8kg/10aを目安としますが、土質、収穫サイズ等により、適宜増減します。

② 圃場準備

完熟堆肥、有機質肥料、苦土石灰を施用して耕起します。ハウス内が乾燥している場合は十分灌水の上、耕起することが大切です。

③ 播種

播種は直播で株間を夏期5～6cm、冬期7～8cm、条間10～15cmで1畝8条程度を基準とし、夏期は株間、条間共にやや広めとします。シーダーテープの利用も可能です。移植栽培は、直播栽培での生育期間が短いためメリットが少ないです。

④ 灌水

播種後、寒冷紗で被覆し灌水チューブを使用して均一に灌水し、一斉に発芽させます。灌水の目安はうねの表面下10～15cmまで水が行き渡るよう十分行います。その後は控え目に管理します。収穫予定の10日前には灌水を停止し乾燥気味に管理することで収穫時の調整をしやすくし、出荷後の棚持ちをよくします。

⑤ 病害虫防除

「小松菜」は生育期間が短く年間の栽培回数も多いのでハウスのサイドやドア、換気窓に防虫ネットを張り害虫の浸入を防ぐとともにハウス内は常にきれいにすることを心がけ、雑草が繁茂しないよう注意するなど耕種的防除に努めます。主な病害はタチガレ病、ナンブ病、ネコブ病、ベト病、ハクハン病、シロサビ病等で害虫はキスジノミハムシ、コナガ、アブラムシ、アオムシ等が発生します。各地の防除基準に従い生育初期の予防的散布を基本とします。

⑥ 収穫までの管理

ハウス栽培の場合温度管理は15℃～25℃を目標とします。夏期栽培(5～10月)ではできるだけ涼しく管理し、7～8月の盛夏期には遮光資材等を併用します。冬期栽培では不織布等を使用して保温に努め、生育促進と抽苔防止を図ります。発芽後5℃以下の温度に20～25日遭遇すると花芽分化が始まります。本種の抽苔は小松菜としては中程度なので留意して下さい。

トンネル栽培の場合4,5,9月の春秋栽培では防虫ネットをトンネルとします。冬期栽培(10～3月)ではビニールトンネルを使用しますが、10月上旬や3月下旬の季節の変わり目は不織布トンネルとする事も可能です。厳寒期はトンネル内に不織布等で二重トンネルやべたがけをすると保温効果が上がります。トンネル内の乾燥、過湿には注意します。

収穫、調整

収穫はハウス栽培では収穫位置のハウス屋根に遮光ネットをかけ、できるだけ涼しく行います。高温期の収穫は萎れ易く、鮮度が低下し易いので、なるべく早朝に行い、予冷库などの活用により鮮度を維持します。

サイズは草丈15cm程度から収穫します。

⑦ 収穫までの目安 (ハウス栽培標準)

- 夏まき(5～9月) 15～18日
- 冬まき(12～2月) 20～25日

下記標準栽培表参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

